

聴く人を魅了する演奏を目指して、
音楽に誠実に向かい合い、
今の自分を表現したい。



■苦手な曲を入れて大会に挑戦

大会では、チャイコフスキーの協奏曲やバロックから20世紀までの幅広い時代の作品、そして邦人作品の合わせて6曲を1時間半で演奏しました。苦手なものと得意なものがありますが、演奏の幅を広げるために、あえて苦手なショパンの夜想曲を入れてこの大会に挑戦し、グランプリを獲得できました。自分の演奏が評価されたので、とてもうれしいです。

■日本フィルとの共演が楽しみ

来年、欧州演奏ツアーや日本フィルサ



まさたか

● 後藤正孝さん（上条町・19歳）

第28回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会（社）全日本ピアノ指導者協会主催）で、最高賞のグランプリを獲得。

ンデーコンサートに出演することも決まりました。日本フィルという大きなオーケストラと共演できるので、ものすごく楽しみです。共演して楽しく、そしてお客様に喜んでもらえる曲を演奏したいです。そのために今は、曲のレパートリーを増やすことを目標にがんばっています。自分が納得して演奏できるようにするには、1曲に最低1か月、だいたい3か月はかかります。最長で5年くらいかかった曲もあるんですよ。

■曲のバックグラウンドを知る

普段は、自分の弾きたいときにピアノ

を弾いています。でも、目の前の楽譜をただ弾けばよいというわけではなく、曲を深く知るためには、曲のバックグラウンドを知るべきだと思っています。文学作品や芸術作品の影響を受けた曲も多いので、その作曲家の好きだった作家や画家の作品を読んだり見たりしています。

ピアノは4歳で始めました。幼いころから弾くのが好きで、遊び道具がピアノだったようです。小学校に入学してから本格的に習い始め、6年生のときから東京へ通い始めました。高校生になると勉強との両立が大変でしたが、やめようと思ったことはありません。困難があってもやりがいもある、そう思っていてあきらめませんでした。

■ピアノは自分を表現する手段

伝えたいこと、自分の思いをピアノに込めて演奏できます。そして自分自身の成長した姿がピアノに表れる、そう思っています。

演奏家として最も大切なことは、聴衆を魅了すること。楽しく弾けば、聴く人にもその楽しさは伝わります。そして音楽に誠実に向かう気持ちを大切に、何も隠すことなく、今の自分を表現する。誰か一人でも、僕の演奏を「良かった」と言ってくれる人がいる限り、そういった自分のスタイルを貫き続け、「ほくらしい」と思ってくれるような演奏をしたいと思っています。